

第4章 施設整備について

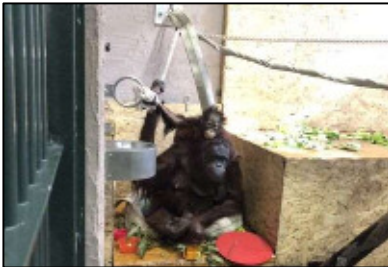
- 1 これまでの取組について
- 2 今後の施設整備について

1 これまでの取組について

毎年実施している施設総点検等で、老朽化や不具合、部分的な用途変更等により改修が必要と判断された獣舎等施設については、飼育環境における安全安心にも配慮して整備・修繕を行ってきました。

動物施設の不具合は、毎年新たに 100 件以上発生しており、重要度・緊急度を判断しながら施設の整備・修繕を行っています。

【第 1 次実施計画期間中（2019～2022）の工事等】

年度	主な整備内容	
令和元年度	バイオ発酵処理施設新築工事 （建築・電気・機械）（291,954 千円） 海獣舎解体ほか工事（76,348 千円） その他整備・修繕（7 件：17,184 千円）	
令和2年度	動物病院入院室（オランウータン飼育用） 改修（9,460 千円） その他整備・修繕（21 件：21,209 千円）	
令和3年度	類人猿館解体工事（32,266 千円） （仮称）オランウータン館新築工事（建 築・電気・給排水）（46,627 千円） チンパンジー館屋外放飼場修繕業務 （6,765 千円） その他整備・修繕（16 件：11,157 千円）	
令和4年度	（仮称）オランウータン館新築工事（建築・ 電気・暖房衛生）（257,080 千円） 乾草庫新築工事（39,697 千円） その他整備・修繕 （15 件：44,077 千円）	

2 今後の施設整備について

限られた資源を効率的かつ計画的に配分し、既存施設の長寿命化を図るとともに、耐用年数を超えた施設については廃止または建替を検討するなど、中長期にわたって計画的に施設を保全していく必要があります。

円山動物園が、自然と人が共生する持続可能な社会の実現に貢献するため、効率的な施設保全計画と動物園全体が魅力的になるような整備計画を策定し、計画的に整備を行

っていきます。

動物施設については、円山動物園で飼育する動物種の展示計画である飼育展示計画を踏まえて整備しますが、飼育動物の出産、高齢化や飼育頭数等の理由により、施設を改修する必要が生じることについても考慮します。

施設整備後には、飼育動物に応じた最適な施設の運用を行うとともに、光熱水等の無駄なエネルギー使用を削減するために、動物施設の間風対策や、設備の運転方法の最適化を目指すなど、環境に配慮した取組を継続的に推進していきます。

第2次実施計画での取組み内容については次のとおりです。

(1) 施設保全計画策定

長期にわたって安心安全に安定して施設を使用できるよう、施設保全計画を策定し、適切な点検・保守や予防的な改修に関する具体的な取組を計画的に進めていきます。

(2) 北海道ゾーンの整備

次の改築を目指している北海道ゾーンの基本方針を策定するため、調査研究を行っていきます。

北海道ゾーンでは、北海道の野生動物を総合的に展示し、その魅力や生息環境、野生下で置かれている状況等を来園者にわかりやすく伝え、北海道内並びに札幌市内の身近な動物の保全に資すること目的とした施設となる予定です。老朽化が進む猛禽舎にて飼育しているオオワシ、シマフクロウ、オジロワシ等の猛禽類や、こども動物園で飼育しているエソモモンガ、エソユキウサギのほか、エソヒグマやエソシカなどの北海道の動物を集約し、一体的なエリアで飼育展示していくことを検討しております。



【北海道ゾーン検討場所】

(3) 動物園全体の施設整備計画の検討

北海道ゾーンやこども動物園等の動物施設の改築をはじめ、園路、便益施設及び管理通路等のあり方などについて、魅力的で効率的な動物園全体の施設整備計画の策定に向けた検討を行っていきます。

(4) 動物福祉向上のための施設改修

すべての動物施設で動物福祉基準を満たすとともに、さらなる動物福祉の向上を目指していくため、動物園応援基金を用いて、必要に応じて施設を改修していきます。

(5) 日常の修繕・改修

日々の点検や定期的な施設総点検により発見した不具合については、緊急度・優先度を判断し、適切に修繕・改修を実施していきます。

【施設整備に係る計画及び改修・修繕のスケジュール】

	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)
計画	保全計画設計	策定			
	北海道ゾーンに関する調査研究				
	動物園全体の施設整備計画検討				
改修 ・ 修繕			保全改修		
	動物福祉向上改修				
	日常の修繕・改修				

【関連する事業・取組（再掲）】

番号	関連分野	事業・取組名	掲載ページ
1	動物福祉	動物福祉向上強化事業	32
5	保全	北海道の野生動物保全事業	36
7	保全	省エネルギー対策・再生可能エネルギー導入の推進	37
11	教育	こども動物園の機能強化事業	40
20	基盤整備	寄付文化の醸成	48

動物園全体の施設整備計画検討に当たっての考え方

最小の経費で最大の効果を発揮できる持続可能な経営に資するよう、施設の集約化も含めた円山動物園全体の施設整備について検討を行い、計画を策定します。なお、検討に当たっては以下の視点に配慮します。

(1) 寒冷地における環境負荷の低減

施設の気密性能、断熱性能を確保し、再生可能エネルギー、省エネルギー、新エネルギー設備について「費用対効果」を確認した上で、積極的な導入を図り、環境負荷に配慮した施設とする。熱帯地域原産の動物の施設や、大量の水を利用する動物施設については、気密性の確保や井水の利用等についても検討し、特に配慮・工夫します。

(2) 動物福祉の向上の観点

動物施設は、動物が生き生きと暮らすために必要な飼育面積やみどりを十分に確保するとともに、環境エンリッチメント^{*}を実施しやすくする、質の高い獣医療を提供するための設備を整備するなど、さらなる動物福祉の向上を意識した整備を行います。

(3) 生息域内外における生物多様性の保全

動物園で飼育している動物種の健全な個体群を維持しながら生息域外保全を行えるよう、また、市民、専門家及び他団体と連携・協力し、生息域内保全を行う活動拠点となるように整備します。

(4) 効果的な環境教育の推進

飼育動物を通じて環境教育を実施する際に、教育的効果を高め、より一層環境教育を推進していくことができるように施設・設備を整備します。

(5) 動物に関する調査・研究

野生動物の保全や飼育動物の良好な動物福祉の確保に関する調査・研究等に取り組んでいけるように、施設・設備を整備します。

(6) 安心して楽しく過ごせるリ・クリエーションの場

動物種ごとの習性・行動・能力などを踏まえ、動物施設において必要な安全対策及び災害対策を行うことはもとより、来園者の良質な憩いの場として動物園を楽しめるよう、トイレ、バリアフリー設備などの改善も含めた施設・園路を整備します。

(7) 予算の確保と助成金の活用

動物園施設全体の整備・保全費用の平準化の検討、事業の将来見通しなどを踏まえて、必要となる予算を確保します。なお、施設の新改築の際には、動物園応援基金の活用や、各種助成金の活用を検討します。

